

(別添 4)

【東吉野村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

人口知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術が高度化し、人々の生活に取り入れられ、社会全体が急激に変化している。新しい時代を迎えていく中で、1人1台端末をはじめとするICTを「文房具」として使い、児童生徒一人ひとりの興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえたうえで、それぞれの個性に応じた学びにより、資質・能力を高めていく「個に応じた指導」で導かれる「個別最適な学び」、また児童生徒一人ひとりのよい所や可能性を生かすことで、異なる価値観や考え方が組み合わせられよりよい学びを生み出す「協働的な学び」を目指していく。

1人1台ずつ、自分のための端末があることにより、児童生徒が自分のペースを大切にしながら、調べ学習をしたのちにスライド等に考えをまとめ発表しあうなど、共同で活動することで「協働的な学び」を発展させることができる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童生徒の可能性を引き出す学びを目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、計画より端末の整備が早まり、教育委員会としても学校としても、戸惑いや困難の中はじまった。補助金を受け1人1台端末の県域での共同調達があり、校内の通信ネットワークも整備された。本村の学校においては、ロイロノートやeライブラリ等のツールも活用しつつ、端末の持ち帰りを推奨し、家庭学習を進めるなど、自宅でも1人1台端末を用いて学習できるように指導を行った。

また学校においては、教育課程外の活動として、プログラミングとICT機器活用の技能を身につける取り組みも行った。こうした取り組みにより、児童生徒がICT機器を活用するスキルが向上し、自分の考えや意見をより分かりやすく伝えるための手段としてプレゼンテーションソフト等のツールを、選択・活用することもよく見られるようになった。しかし、そういった状況の中で、説明するための資料が膨大になりすぎたり、情報リテラシーが低かったりといった課題も見られるようになった。そういった課題を解決し、さらに児童生徒がICT機器を活用し、発信する力を高め、一人ひとりの個性を生かす学びを目指して、児童が情報を適切に取捨選択できるようにするなど情報リテラシーを高める指導や、1人1台端末を「文房具」のように使いこなせるように、日々の取組を継続していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

児童生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばすという観点から、1人1台端末を最大限活用することなどにより、基礎的な知識や技能、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の確実な育成が行われるとともに、多様な児童生徒一人ひとりの

興味・関心等に応じて、ICTのできるアプローチによりその意欲を高め、やりたいことを深められる学びを提供できるようにしていくことを目指す。

また、電子ドリル等、学習ツールを活用することで、児童生徒の学習状況を教職員が把握できる中で、それに基づき特別な支援を必要とする者に対する個別支援が充実され、多様な児童生徒一人ひとりに応じた学びの機会を設けることを目指す。

1人1台端末を用いた学び合いにより、他者と協働する主体的な学びを得ることができ、また、東吉野村という地域だからこそできる様々な体験活動などの、振り返りのツールとしてICTを活用することで、児童生徒同士で発表するなど、学びを深めることを目指す。

こうした端末の利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒に向けた1人1台端末環境を引き続き維持することに努める。